

令和3年度第1回広島市立図書館協議会（書面開催）の意見

議事1「図書館事業について」

委員名	意見等
吉田委員	<p>昨年度のアンケート結果から、利用者の満足度はおおむね高いと言えるが、貸出以外のサービスを知らない人が多いのはもったいなく、紹介の工夫によって認知や利用がふえるのではないかと思う。</p> <p>コロナ禍における全面休館等の経験から、改めて、図書館は本を読みたい時、調べたい時にいつでも利用できる施設であり、そういう図書館が身近に当たり前のように在ることに感謝している。</p>
上田委員	<p>コロナ禍での図書館の利用は通常通りいかないことは仕方がない。</p> <p>シンプルで分かりやすいデザインのホームページにしてほしい。（特にトップページでカテゴリーを分かりやすく）</p> <p>電子書籍の利用の仕方を分かりやすくホームページに載せてほしい。</p> <p>電子書籍と紙の書籍の役割があるので、今後の電子書籍の選択をしっかりと議論してほしい。</p>
矢野委員	<p>全館が工夫を凝らし、多様なサービスの展開に尽力されていると思う。</p> <p>「高校生に向けた出前ブックトーク」について、この実施がヤングアダルトの利用へ繋がり、実施から得たニーズや情報等がヤングアダルトサービスへ還元されると良いと感じた。</p> <p>多言語での図書等の充実や布絵本・点訳絵本の充実、障害者施設への出前お話し会などが全体に充実するようその仕組みも含めて広がると良いと感じた。</p> <p>アンケート結果から、広島市立図書館のフェイスブック、レファレンスサービスや図書館以外での返却サービス等について知らない方がまだ多くいることが気になる。これらのサービスについて知っている利用が増えると、利用する側も図書館としても充実度が増すのではないか。</p>
庄委員	<p>令和3年度について、このような時期には、活動を継続すること自体に価値があると思う。一方で、社会的にはオンライン上で多くの活動が展開されてきたにもかかわらず、図書館活動においては従来からのSNS・ホームページを利用した情報発信に留まっていることを残念に思う。同じ活動であっても、リアルタイムで発信すればインターネットを通じての参加者募集が可能となり、講座・研修・交流等については、参加はもとより、音声による質問・意見交換も可能である。利用者・参加者拡大のためにも、新しい形での利用者とのコミュニケーションに挑戦していただきたい。</p>

林委員	<p>利用者数・貸出数の新型コロナ禍の前年比では如何か。</p> <p>利用者数：67.0%（令和2年度：2,300,577人、令和元年度：3,433,443人） 貸出数：73.9%（令和2年度：3,439,989人、令和元年度：4,652,274人）</p> <p>アンケート調査結果について、来館者へのアンケート調査の実施が、令和2年度ではR2.12.14～R3.2.7の全面休館を挟んで2回となったが、全面休館の前と後での回答傾向に特徴は見られたか。</p> <p>アンケートの集計は、全面休館の前（令和2年12月10日（木）～12月13日（日））（開館日数4日間）分と、全面休館の後（令和3年2月16日（火）～2月28日（日））（開館日数11日間）分を合わせて行ったため、全面休館の前と後での回答傾向の特徴は、分析できていない。</p> <p>新型コロナ感染防止に関する危機管理体制の強化や変更がありましたら、お教えいただきたい。</p> <p>資料3「コロナ禍における図書館運営について」の2現況(2)感染防止対策で示した対策を新たに実施している。</p> <p>広島市立図書館のフェイスブック、レファレンスサービスや図書館以外での返却サービス等について、一定数の「知らない」との回答があり、周知の方法について検討されていると思うが、次のようなアイデアはいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市の広報紙等での図書館の利活用の情報提供 ・ 市立学校での児童生徒への「発達段階別図書リスト」の配布にあわせた保護者向け図書館の利活用の広報チラシの配布
※ いただいたご意見は、今後の図書館事業の参考とさせていただきます。	

議事2「子どもの読書活動推進計画の推進状況について」

委員名	意見等
山崎委員	<p>中学校における子どもの読書活動の取組の結果から、年間計画の見直しを行い、読書指導の充実に取り組んではいるが、日常的に読書する習慣を身に付けさせるにはどうしたらよいかという難しさを感じる。</p> <p>図書館との連携については、年間指導計画の見直しの際に計画的な連携を検討してみてもどうかと思う。</p>
吉田委員	<p>乳幼児から高校生まであらゆる子どもたちに、一貫して読書支援をされているのが良い。</p> <p>コロナ禍で取りやめになった行事やサービスが多いのはしかたのないことだが、4か</p>

	<p>月児健康相談時や保健センターでの読み聞かせは、乳幼児を抱えて孤立しがちなお母さんのために、感染対策をとってぜひ実施してほしい。</p> <p>小中高校生に向けての支援内容はとても充実しているので、学校からの利用がもっとふえるとよい。ボランティアによる朝読おはなし会は、昨年度から中止になっている学校が多いので、子どもたちの読書推進のために、教育委員会と図書館に再開の応援をお願いする。</p> <p>また、読み聞かせにふさわしい絵本リストや「リブサポ通信」「図書館高校生通信」などがホームページでも公開されていて、予約サービスと合わせて役立つ。</p>
上田委員	<p>小学校での図書の授業がなくなりつつあることや先生方の多忙などで、図書ボランティアの出番も少なくなり、メンバーの減少、自然消滅しそうな状況である。</p> <p>児童・生徒は屋内で過ごす時間が多いはずであるから、読書の大切さを学校側からもお願いしたい。</p> <p>図書館での本の貸出、マナー講座を学校で開いてほしい。</p> <p>小学校での調べ学習用の本の貸出(盲導犬、点字関係)がとても好評であったので、小学生向け調べ学習用資料を増やしてほしい。太田川放水路、八木用水、マツダのロータリーエンジン、広島市の偉人鈴木三重吉、村山聖など、マンガ偉人伝が欲しい。(福山市は山陽新聞、福山市ロータリークラブなどで制作されている)</p>
矢野委員	<p>令和2年度については、コロナの影響が大きく、本来の実績とは異なることが多かったと思う。読書との出会い・入り口になる乳幼児に関しては、リスト等の情報源の提供と共に、対面での保護者への働きかけが重要だと思う。できれば、学齢期前半時期の保護者にも届くと良い。家庭読書アドバイザーの認知度と派遣が増えると良いと思うが、派遣回数が増えるのが気になる。</p> <p>公民館での赤ちゃん絵本コーナーの設置も横ばいだが、そこには背景があって限界なのかこれから期待ができるのか、可能な限りで設置が増えることと、公民館で活動するボランティアの育成も併せて充実できたら良いかと感じる。</p>
庄委員	<p>令和2年度は利用が少ない活動もあったが、活動を継続したことに価値がある。</p> <p>一方で、社会全体に工夫が求められた令和2年度において、来館・来場型の活動については特に対応が見られなかったことに物足りなさを感じる。</p>
林委員	<p>令和2年度の実績について、コロナ禍でも実施でき参加人数が計上できている取組もあるが、図書館の「全面休館」や「一部サービスの休止」のような措置期間中ではない期間に実施することができた結果なのか、また、その他に創意工夫がなされて実施できたのか、令和3年度以降に参考となる事例があれば、ご教示いただきたい。</p>

	<p>措置期間外の期間にできるだけ延長して実施した。また、毎年4月に行う予定の「子ども読書まつり」が措置期間と重なり実施できなかったため、秋に延期して中央図書館主体で開催される「ひろしま図書館まつり」と共同開催した。</p> <p>令和3年度は日程の調整がつかず、残念ながら中止となった事業もあったが、日程を延期するなど調整し、可能な限り開催している。その他に「一部サービスの休止」などの措置期間中に、来館しなくても楽しんでいただけるように、「図書館おみくじ」や「ほんだいすきクイズ」、「ぬりえ」を図書館のホームページから行えるように令和2年度に引き続き令和3年度も実施した。</p>
<p>※ いただいたご意見は、今後の子供の読書活動推進のための取組の参考とさせていただきます。</p>	

議事3 「今後の広島市立図書館サービスのあり方について」

委員名	意見等
本家委員	<p>「市民が情報を求める際に利用できる」サービスでは、ネット社会が進む中で図書館の価値が下がってしまうことが予想される。新しい時代においては、マスコミや行政、企業、文化人、書店等と連携し、新たな市民の興味や関心を作り出し発信していくことが重要ではないか。</p> <p>本をどれだけ利用してもらったかという指標だけでなく、図書館という場所で、どれだけ人の心を動かしたかということも指標になる。また、興味等を通じて、人がふれ合う・出会うということも指標になると考える。</p>
吉田委員	<p>多くを盛り込みすぎて主旨がわかりにくいので、「基本的な考え方」2と3の説明の文言をわかりやすくまとめ直してほしい。</p> <p>予約図書を受取場所を増やしてほしい。</p> <p>現在実施している図書館サービスを市の広報などで随時紹介してほしい。</p>
上田委員	<p>広島の文学歴史が海外のお客様、修学旅行の見学に使ってもらえるよう考えてほしい。</p> <p>カフェ、会議室、講演会場、書店、食事のできるフリースペースなどあればよい。</p> <p>自習スペースは、現在の別室ではなく図書館内に置いてほしい。</p> <p>図書館内に仕切りを設置して読み聞かせスペースを設置。</p> <p>小さい時から本の貸出ができるように、本を入れる子ども用ワゴンと、子ども用の低いカウンターを設置してほしい。</p> <p>図書館の別フロアに書店を設置してほしい。</p> <p>図書館員と書店員が刺激し合えるよう、イベントを同時進行させながら棲み分けをしてほしい。</p> <p>書店と連携して市内書店の支店など窓口を設け、本の受け取り、返却をしてはどうか。</p>

	<p>書店としても来客数が増えるメリットもある。(尾道市立図書館、三原市立図書館など、啓文社と連携していることを参考にしてほしい。)</p>
矢野委員	<p>老朽化からくる課題については、今後の建替時に改善されることを期待します。書庫や作業スペースなど、長期視点からみて十分な整備をして現在の課題が最大限改善される方向で検討していただきたい。併せて、利用者のための快適な空間づくりも他館の取り組みを参考に検討していただきたい。</p> <p>取り組んでいることも図書館ならではの魅力も利用者に伝わっていないことが多々あるように思う。どうやってそれが届くかも重点事項として検討の必要があるように思う。</p>
庄委員	<p>今年度も様々な取り組みが計画されており、サービスのより一層の充実に向けて力を発揮していただきたい。</p> <p>社会の変化、また人の考え方の変化に合わせ、図書館も変化してほしい。</p> <p>来館型、発信型のサービスは維持しつつ、知識基盤社会における情報センターとしての図書館、また地域におけるコミュニケーションの中心となる図書館の新しい姿を模索することが求められていると考える。</p>
林委員	<p>広島市においては、図書館に係る行政施策が市民局に置かれていることを踏まえると、教育行政を担う教育委員会の施策との整合性はもちろん、広島市全体の行政施策との整合性がより強く求められるとともに、そのことを強みとして「今後の方向性」を検討することが必要と感じる。広島市の総合施策における市民の幸福の希求についての意見や描いている市民像がありましたら、検討の基盤にできればと思う。また、老朽化した現在の中央図書館の再整備の検討も合わせて、今後の「広島市立図書館サービスのあり方」が検討される必要も強く感じる。</p>
前田委員	<p>図書館サービスのあり方を検討する際に、今後図書館をどのような人に利用してもらいたいかを考えておくべきだと思う。参考資料2のアンケート調査結果(速報)から、時代の変化に変わらず、図書館を利用可能な年代の市民の20~30%強は図書館を積極的に利用することを示していると言える。今後の図書館サービスのあり方を考えるとき、目的を持ち、希望・期待して図書館を利用する人がより利用しやすい、充実したサービスが何かを考えることも1つの考え方と思う。利用者を増やすことを目的として新たなサービスを提供することと利用したい人向けのサービスを充実することに対してそれぞれ用意すべきものが変わり、かかるコストも異なる。図書館に足が向いていない人がカフェスペースやイベント開催などの機能を提供することで続々来館するようになるのではという期待はやや楽観的で、結局コストパフォーマンスの悪い結果を招くことになるかもしれない。市町ごとに事情が異なるが、先行事例などの調査も必要である。市立図書館として広く市民を対象とすることが求められると思うが、本来、図書館は本を読</p>

む、資料を提供することが目的で設立されているもので、それを利用したい人が一定数いるのであれば、その人たちが利用しやすい図書館のサービスを提供することに焦点をあてることは結果的に予算的にもメリットがある。図書館が好きな人にとって充実している図書館というのを広島市立図書館のセールスポイントにすることも1つの戦略かもしれない。

一方で、やはり利用者を増やすことが必要であれば、カフェサービス、イベント等追加機能を提供しなければならないのは必至。その場合、現在使われている図書館の活動の指標になっている、蔵書数、貸出数、来館者数、開設講座数など量を問うような目標値を掲げ続けていると実態とギャップが生じる。このことはサービスのあり方と並行して考えるべきだと思う。ただ、これは時代の変化に伴わない指標が図書館業界全体の課題で、一つの図書館で変えていくことは難しいことだと思う。

※ いただいたご意見は今後の図書館サービスのあり方の参考とさせていただきます。